

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立錦糸小学校
校長名	高山 幸

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・34 観点中 33 観点において目標値を上回り、さらに 31 観点で 5p 以上上回った。「知識・技能」においてはどの学年も目標値を上回り、基礎学力の定着が見られた。 ・昨年度と比較し、高学年の理科と英語において平均正答率が上がっていることは、教科交換や講師活用等、日々の学習の成果と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 学年社会科と理科において、「思考・判断・表現」が低い結果となった。特に理科においては、D 層が 42.9%を占めており、初めて学習する教科ということで、学習で得た「知識・技能」を活用する力が不十分であった。 ・他学年も、昨年度と比較すると「思考・判断・表現」における低下が見られた。応用力を身に付けさせることが課題である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業中グループで話し合う時間がある」の項目では 90%以上の児童が肯定しており、全学級が授業の展開において話し合いの時間を設定しており、児童も意識していることが分かった。また、「話し合う時間が楽しい」の項目で、80%以上の児童が肯定していることは、数年にわたり、探究的な活動を重視した授業に取り組んできた成果だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、話し合いは楽しいと感じている反面、「発言や発表に対しての質問」の項目では肯定する児童が 50%程度であることから、昨年度同様に、発言に対して苦手意識をもつ児童が多いことが分かる。意図的な指名や具体的な賞賛することで、自信をもたせ自己肯定感につなげる。また、校内研究を通して、対話を通した学習の深まりも追究する。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・生活科・総合的な学習の時間を中心に、体験的な活動や探究的・問題解決的な学習を計画的に実施したことで、意欲や気付きが増える等、問題解決能力が上がってきている。 ・タブレット端末(学習アプリ)を活用することで家庭学習の定着が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見に自信がもてず、表現することに躊躇する児童がどの学年にも一定数いる。発表方法(タブレット端末活用等)を工夫することで、成功体験を積み重ねさせる。 ・学習準備や家庭学習への取組に個人差が見られる。保護者と連携を図りながら、学習準備、放課後補習や個別指導を継続して行っていく。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 全教科・領域における、自分の考えを書いたり表現したりする活動を取り入れた授業づくり

学習問題・学習課題を自力解決する場面や検証結果から考察する場面、振り返りにおいて自分の考えや分かったことを書く場面を適宜設定し、文章で表現する力を伸ばす。また、書いたことを発表につなげることで、児童が自分の考えに自信をもち、自己肯定感へとつなげる。

(2) 全教科・領域における、探究的・課題解決的な学習の展開

生活科・総合的な学習の時間を中心に、教師が一方的に教えたり、学習活動を与えたりするのではなく、児童の気付きや疑問、体験的な活動を大切にし、それを基にした探究的、課題解決的な学習活動を児童とともに創り上げていく。更に、学習活動を進める際に、児童が他者と協働して、直面する課題を解決していけるように、授業の改善に努める。

(3) 理科における、児童の思考の流れを意識した授業改善

教師主導で教科書の内容を教え込むだけではなく、次のような学習の流れを大切にする。

- ① 学習につながる興味や意欲を高める導入の工夫
- ② 児童の気付き、疑問から学習課題を設定
- ③ 学習課題に対して根拠をもった結果予想
- ④ 児童の考えた予想の検証方法の検討
- ⑤ 実験や観察等を通しての検証
- ⑥ 検証結果から課題について分かることの考察
- ⑦ 用語や知識の定着を図るためのまとめ

これら、児童の予想・仮説を基にした実験・観察を通して、理科の思考力を高める。単元の終わりに日常生活にフィードバックしたり、タブレットドリル等を活用したりして、既習内容(知識・技能)の定着を図るとともに、様々な問いに対し自分なりの回答をまとめることで、応用力を高める。

(4) 組織の活性化と学力向上委員会を中心とした指導力の向上、個人差に応じた取組の強化

- ① 令和9年1～3月に、タブレット型端末・プリント学習等を活用しながら当該学年の振り返り学習を全学年で実施し、学習内容を定着させる。
- ② 学習状況調査結果(S-P表等)に基づいた前学年の復習を、夏季休業前に行う。
- ③ 各学年終了までに身に付けさせたい基礎学力について、共通認識の基で組織的に取り組む。
1学年：10の合成、繰り上がり、繰り下がり、ひらがな、カタカナ 2学年：かけ算九九
3学年：わり算、ローマ字 4学年：四則計算、都道府県
5・6学年：四則計算、アルファベット 各学年共通：学年配当漢字
- ④ タブレット型端末を用いた家庭学習、放課後学習や個別指導等の個人差に応じた指導を行う。
- ⑤ 計画的・継続的なOJT研修を実施し、教師の指導力の向上を図る。

3 「令和9年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・全教科におけるD E層の割合を全学年35%未満とする。
ただし、達成できている学年においては5%程度減とする。
- ・国語の記述式の問題に対し、無回答の児童を各学年5%程度減にする。